



丞子

○花時の氣象予報士鼻詰り  
晩春の行灯仕立て山畑  
道の駅友の名入りの独活の束

郁子(岡)

二人連れ足取り軽く遍路行く  
青空や散りゆく桜それぞれに  
晩春や夕日輝く海辺にて

農子

一本の桜の元に笑い声  
晩春のビキニ被爆の話聞く  
初燕水田の上に白い腹

酔花

○行く春やあわてん坊の砂時計  
桜咲く人の匂いのするところ  
晩春のうしろ姿や白昼夢

紀美

○晩春の月を背負うてウォーキング  
一年がまためぐり来て桜咲く  
満開の桜囲みてスマホ群れ

初江

○若緑夫の遺せし鉢三つ  
○ユーキャンの資料そのまま暮の春  
葉桜の四万十とおわ道の駅

えり

○くれないの桜蕊降る別れかな  
○日に向いて三椏の花機嫌よし  
春の果軋み抽斗鍵仕舞ふ

迪子

○晩春のなごり集めて伸ぶ虎杖  
あげし手を花びらすり抜け舞いしきり  
山深し白に染め行く桜かな

志津子

○日もすがら桜しべ降る水溜り  
○晩春の山は緑のPATCHワーク  
春灯や一人の夜の長きこと

利恵

春嵐山見上げれば桜色  
春昼井守逃げず庭を掃く  
初孫を頭上げて見る卒業式

富子

葉桜の蔭に憩い蒼ざめる  
夕チアオイ晩春の空へ首伸ばし  
子は育ちいつのまにやら蝌蚪を見ず

博美

角落ちてギシギシ廻る水車  
指を組み虎杖の芽が湿りゆく  
ぐいぐいと葱坊主でる秘密基地

千代

○亡霊も闇に紛れて花の宴  
○晩春の土手にごろりと山羊の背  
○すかんばやスカート跳ねてけんけんば

文子

○モンローの天井画の寺花の冷  
晩春の道を横切る鳶の影  
鳩の巢の卵二つや雨にぬれ



味元 昭次 作品

春深し葬の欠伸を噛み殺し  
亡父亡母亡兄亡姉花筏  
峠越え来て廃校の夕桜

★次回市民句会

【開催日時】

令和六年五月二十二日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

